

令和4年度 県選・県体等壮行会 激励 (R4.7.4)

校長 高瀬 知郎

雄中生の皆さん、こんにちは。

生徒玄関にもたくさんの賞状が掲示してありますが、6月中に行われた新川地区大会はじめ、各大会での活躍、本当によくがんばりました。この後、北信越・全国につながる県選手権大会、吹奏楽部は今年度のメンバーで初めて出場する県吹奏楽コンクール、それぞれの大会で、これまで鍛え上げ磨き上げてきた技と力を存分に発揮し、「文武両道の雄山中学校」の名をますます高めてきてください。みなさんのがんばりが、雄山中学校全体の経験値となりエネルギーとなるのです。健闘をお祈りしています。

さて、前回ここに全校生徒が集まった新川地区大会の壮行会（6月7日）から約1か月が経とうとしています。この1か月、みなさんは1年の12分の1にふさわしい成長を遂げることができましたか。毎日食事をしていれば、自然に身長や体重は増えるでしょうが「人としての中身」はどうでしょうか。人としての大切な力「知力」「体力」「精神力」は、ただ食べて寝ているだけでは身に付きそうにありませんね。目標をもち、計画を立ててがんばらなければ、人として成長することは難しい。勉強も部活動も同じです。必死になってがんばり続けてはじめて、結果を出すことができるし、成長することができる。いや、むしろ「結果なんかどうでもいい」と思えるくらい夢中になって打ち込んでいるときに、自然と結果はついてくるものです。

そして、そんな本物の努力を続けているうちに身に付いてくるのが「がんばる心」と「自信」です。一つのことを最後までやり抜いたとき、「もしかしたら、他のこともがんばればできるかもしれない…」という小さな自信が生まれます。その努力と自信を積み重ねているうちに「自分は、やればできる!」という本物の自信が育ってくるのです。このことを心理学では**自己効力感** (self-efficacy) と言います。何かをする時に「自分はできる」と思って始める人は成功率が高く、「自分はできない」と思って始める人は成功率が低いということが証明されているのですが、私は、この自己効力感もまた、自然に身に付くものではないと思っています。何かを始めるとき「やればできる」と思える人、それは、がんばって何かを成し遂げてきた経験をもっている人ではないでしょうか。

中学校は、そんな経験をいっぱいできる場所です。失敗を気にせず、思い切りチャレンジできるところです。勉強も、部活動も、生徒自治の生徒会活動も、これまで自分ができなかったこと、やってこなかったことに果敢に挑戦して行ってください。その挑戦こそが、みなさんの中に眠っている能力や才能を呼び覚まし、本物の自信を育てるのです。中学生にもなれば、自分の成長は自分の責任。自分を磨き育てるのは自分自身です。自分の努力によってどんな自分にでもなれる。

雄中生一人一人の「挑戦」に期待しています！